

第5回滋賀県製品等を通じた貢献量評価手法検討会 議事要旨

日時：平成24年11月5日 14:00～16:00

会場：環びわ湖大学・地域コンソーシアム会議室

出席者：笠坊委員、梶山委員、竹内委員、仁連委員（座長）、橋本委員
（欠席者：橘井委員）

議題：（1）意見交換会の結果および、「検討会とりまとめ」への視点について
（2）試行算定の状況について
（3）（仮）算定作業シートについて
（4）貢献量評価の結果の活用について
（5）参考情報（代表的製品のLCA事例）の提示について

議事概要：

1. 意見交換会の結果および、「検討会とりまとめ」への視点について

- ・意見交換会で挙げられた「自社が他社と比べて劣っている場合はPRにならない」との意見については、事業所単位の報告であること、算定の条件が各事業所で異なること、また、自社の旧製品との比較でもよいこと等から、気にする必要はないと考えられる。手引きにはその旨を注釈として記載する。

2. 試行算定の状況について

- ・部品関連企業の場合、軽量化の目的（完成品全体の軽量化や省エネ化を目的として軽量化したのか）や軽量化の方法（機能を維持した上での軽量化が妥当）を事業所に確認し、軽量化による削減量を算出することが妥当であるかどうか検討した方がよい。
- ・素材の軽量化による省エネ効果については、完成品の製造者のコンセンサスも得た上で算定することが望ましい。
- ・完成品全体の重量と比較して構成部品の軽量化量が微々たるものである場合、当該完成品の軽量化による実使用時のエネルギー削減を貢献とすることは疑問である。使用段階より廃棄・リサイクル段階の削減等の方が妥当である可能性がある。
- ・算定方法の妥当性の高さを求めると、算定のハードルが高くなり、算定可能な事業所が限定されてしまうことも懸念される。（事務局）
- ・算定方法については、社内で試算する段階や、公表する段階等で必要となる妥当性にステップがあるだろう。
- ・自動車の軽量化については、重量と燃費の相関を求めることはなかなか難しい。

3. (仮) 算定作業シートについて

- ・主に使用段階のエネルギー消費削減による貢献を想定して作成されているが、例えば、製品の長寿命化等、その他の貢献のあり方でも使えるようにした方がよい。
- ・具体事例をみながらパターンの追加を検討する。(事務局)
- ・現行案では、シートBとシートCの選択について、データが多く得られる方が削減量が小さい算定方法となっている。データが多く得られる方が有利となる方が望ましい。

4. 貢献量評価の結果の活用について

(貢献の示し方)

- ・貢献量が大きな値となっても、それだけたくさん排出する製品を作っているとの見方もされ得るので、数値を並べて示されるのはうれしくない。
- ・貢献量の数値を一覧表にすることはできないと考えている。貢献量を定量的に報告していただいた場合も、定性的な記載とした上で、もともと定性的な報告事例も含めたまとめ方をしたい。(事務局)
- ・最初は定性的な情報でよいと思う。
- ・現在のライフスタイルの中で削減しているものと、将来のライフスタイルの中で核となる技術・製品と、見方が二つあり、両方大事である。
- ・数値を示す場合は、原単位での記載や、将来的に全体に普及すればこれだけの貢献になるというアピールのし方も考えられる。
- ・大企業は自らでのPRも可能であるため、中小企業の取組に焦点を当てた方がよい。
- ・大企業でも滋賀県の特徴が現れる製品・事業所は掲載するとよい。
- ・大企業も含め、県内の各事業所の貢献をまとめ、広く応援につなげたい。(事務局)
- ・県民に知らせることも重要だが、県内事業所の取組を外へPRして、企業の成長につなげることが大事である。

(県の政策目標達成への使用について)

- ・各事業所から提出される貢献量を情報源として県域の貢献量を検討する。場合によっては、県として前提条件やフィルタをかけて合算することも考えられる。

5. 参考情報(代表的製品のLCA事例)の提示について

- ・太陽光発電システムは創エネ製品で、排出量の割合で見ると使用段階が0となるが、系統電力代替による使用段階の削減量が大いはずである。排出量だけでなく代替による削減量も含めた形で示した方がよい。
- ・代替電源を何とすべきか、調整電源か全電源か、調整電源の場合一般的な電源は何か、検討が必要である。
- ・各事例によって数値にばらつきがある。年、サイズ、規格など関連する条件を示すか統一した方がよい。

- ・ 現行の資料では、使用段階の排出量が大部分を示す製品が多いが、ライフサイクルでの評価が必要な製品を多く掲載した方がよいのではないか。
- ・ 根拠を示しさえすれば、既存の LCA 事例を参考に評価する活動範囲を限定したり、一部の段階で既存の LCA 事例の値を使用することは問題ないと考えられる。

6. 閉 会

以 上